

公立大学法人横浜市立大学

第214回 キャンサーボード

第6回 がん地域連携カンファレンス

働き盛りの夫が妻を看取る

～その時地域連携にできることは～

日時：2019年2月6日（水） 18:00～19:00

場所：横浜市立大学附属病院 4階第1会議室

JR「新杉田駅」、京浜急行「金沢八景駅」より
シーサイドライン「市大医学部駅」下車1分

がん末期患者の在宅緩和ケアが普及しつつあります。

しかし主介護者が中壮年期の働き盛り男性であった場合、患者さんの意向を確認することなく

「自宅療養は無理」と介護者、病院スタッフも選択肢から除外することがある現状です。

「無理」と判断する背景は、介護者のライフスタイルを尊重しつつ介護参加することの困難さがあげられます。

在宅緩和ケアを希望する患者とその夫、担当の医療スタッフが

自宅退院を選択肢の一つとして認識できるために

地域と病院の連携で何ができるかを考えたいと思います。

○事例紹介：横浜市立大学附属病院 産婦人科学 今井 雄一

○事例提供者：横浜市立大学附属病院 退院・在宅療養支援看護師 小園 千夏

○発言者：医療法人裕徳会 港南台病院 大塚 裕一 医師

ケアーズ港南台訪問看護リハビリステーション管理者 内山 久美子 看護師

フルライフ本郷台 石島 文子 ケアマネジャー

主催 横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター

横浜市立大学大学院医学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

共催 横浜市立大学附属病院医学・病院企画課

問合せ先 横浜市立大学大学院医学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン事務局

TEL:045-787-2623 FAX:045-787-2740 E-mail: ganpro@yokohama-cu.ac.jp